**「高齢化社会におけるペット飼育」に関するリサーチプラン**

**１．調査の背景と目的**

大阪府では、「人と動物とが共生できる社会の実現」を図っていくことをめざす「大阪府動物愛護管理推進計画」（平成26年4月改定）を策定し、動物愛護管理行政の推進に取り組んでいる。

今般、動物愛護の取組みの推進に資するため基金が創設され、基金を活用した新たな取組みを検討する中で、高齢者がペットを飼育することによる影響や課題等について調査を行い、今後の施策検討のための参考とする。

**２．サンプル割付け**

　　大阪府民（18歳～64歳）700人、大阪府民（65歳以上）300人の計1,000サンプル。その内、現在、犬又は猫を飼っている人（500人）、及び過去に飼ったことがある人（500人）。

**３．調査（検証）事項**

仮説１：　高齢者の方が、ペットを最後まで世話をする自信がないと考える人が多く、ペットを飼っている人は、今のペットで最後にしようと思っている。

仮説２：　ペットを飼育する上での不安と負担は年代、所得によって違う。

　仮説３：　ペットの面倒を見られなくなった場合に頼れる人がいる人は、またペットを飼いたいと思う割合が高い。

仮説４：　高齢者の方が、ペットの面倒を見られなくなった場合に頼れる人がいない人の割合が高い。

**４．質問項目**

　ＳＣ１　性別

　ＳＣ２　年齢

　ＳＣ３　都道府県（ＳＡ）

ＳＣ４　市町村（ＳＡ）

　ＳＣ５　犬猫の飼養経験（現在・過去）の有無（ＳＡ）

本質問　１６問

Ｑ１　飼っている（過去に飼っていた）ペットの種類（ＭＡ）

Ｑ２　飼っている（過去に飼っていた）ペットの飼育形態（ＳＡ）

Ｑ３　ペットを飼うことで得られるメリットについて（ＭＡ）

Ｑ４　ペットを飼うにあたっての不安なことについて（表組・ＳＡ）

Ｑ５　ペットを飼うにあたっての負担で大きいもの（ＭＡ）

Ｑ６　ペットの再飼育意向（ＳＡ）

Ｑ７　【ＳＣ５過去ペット飼育有、ＳＣ５現在ペット飼育中かつＱ７また飼いたいが飼うことができない・飼いたいとは思わないを選択】ペットを飼わない、飼っていない理由（ＳＡ）

Ｑ８　ペットを飼う上で重要だと思うこと（ＭＡ）

Ｑ９　代わりにペットの面倒をみてもらえる人の有無。（ＭＡ）

Ｑ１０　ペットサービスの利用について（表組・ＳＡ）

Ｑ１１　高齢者のペット飼育を支援するためボランティア活動への協力について（ＭＡ）

Ｑ１２　迷い犬、迷い猫を見つけた時の連絡先の認知（表組・ＳＡ）

　Ｑ１３　世帯所得（ＳＡ）

　Ｑ１４　生活の金銭的な余裕について（ＳＡ）

　Ｑ１５　世帯構成（ＳＡ）

Ｑ１６　ペットに不妊去勢手術を行っているか（ＳＡ）

Ｑ１７　ペットの所有者明示について（表組・ＳＡ）

**５．検証方法**

（仮説１）ＳＣ２×ＳＣ５×Ｑ７、ＳＣ２×ＳＣ５×Ｑ６

（仮説２）ＳＣ２×Ｑ４、Ｑ５、Ｑ１３×Ｑ４、Ｑ５

（仮説３）Ｑ９×Ｑ６

（仮説４）ＳＣ２×Ｑ９